

定点把握疾患の届出状況(令和6年7月~12月)

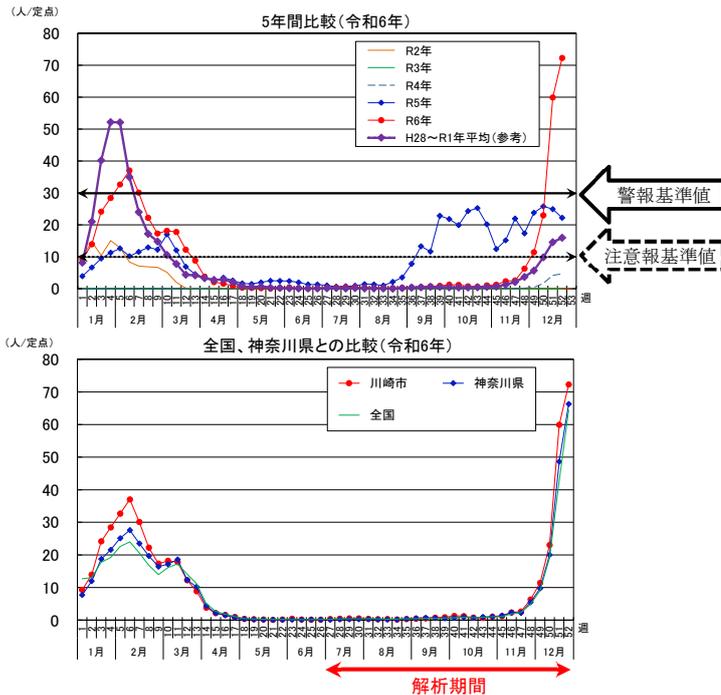
<インフルエンザ/COVID-19定点対象疾患>

※令和2年~令和5年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、他疾患の報告数が通常と異なる傾向であったため、平成28年から令和元年の平均と比較を行った。

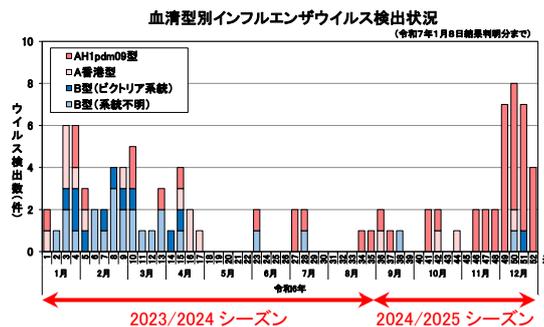
インフルエンザ(警報基準値:定点当たり30人、注意報基準値:定点当たり10人)

【川崎市】

今期(令和6年7月~12月)は定点当たり7.41人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると3.19倍で、例年よりかなり高いレベルで推移しました。2023/2024シーズンは、第17週(4月22日~4月28日)に定点当たり1.00人を下回り、非流行期となりました。2024/2025シーズンは、令和6年第40週(9月30日~10月6日)に定点当たり患者報告数が1.28人となり流行期に入った後、令和6年第49週(12月2日~12月8日)に定点当たり患者報告数が11.41人となり、流行発生注意報基準値を超えました。その後第51週(12月16日~12月22日)に定点当たり患者報告数が59.92人となり、流行発生警報基準値を超え、第52週(12月23日~12月29日)には定点当たり72.28人となり、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」が施行された平成11年以降最多の報告数となりました。

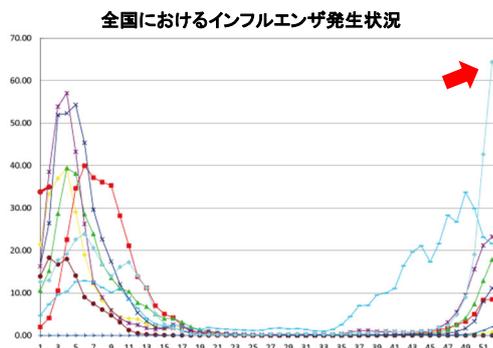


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。2023/2024シーズンは7月以降に、AH1pdm09型が5件、B型(系統不明)が1件検出されました。2024/2025シーズンは、AH1pdm09型が34件、A香港型が4件、B型(ビクトリア系統)が2件、B型(ビクトリア系統)が1件検出されました。



【全国及びその他】

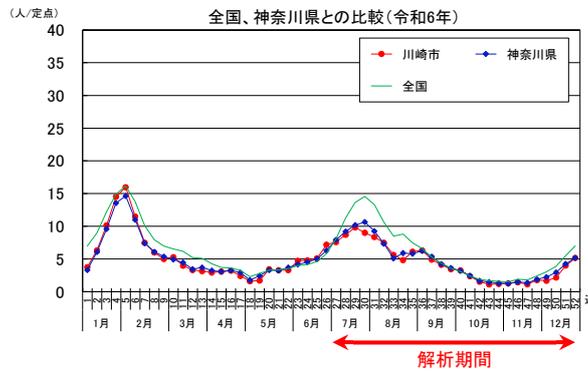
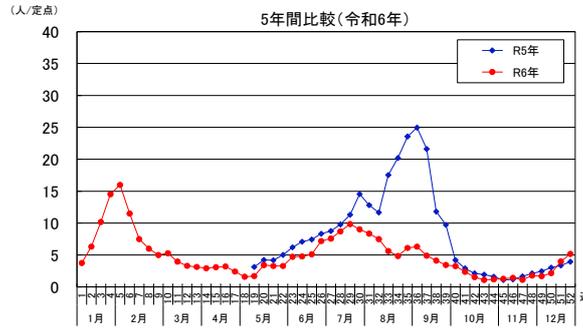
全国的にも例年よりかなり高いレベルで推移しました。



新型コロナウイルス感染症

【川崎市】

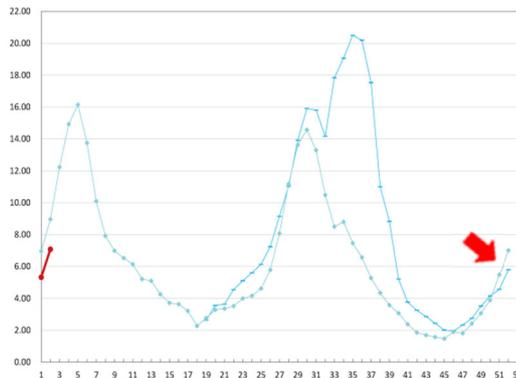
今期は定点当たり 4.37 人の報告がありました。5月上旬以降患者報告数が増加し、第 29 週（7月 15 日～7月 21 日）に流行のピーク（定点当たり 9.84 人）となりました。その後、報告数は減少しましたが、第 44 週（10月 28 日～11月 3 日）以降再び増加しています。



【全国及びその他】

全国的にも年末に増加がみられました。

全国における新型コロナウイルス感染症発生状況



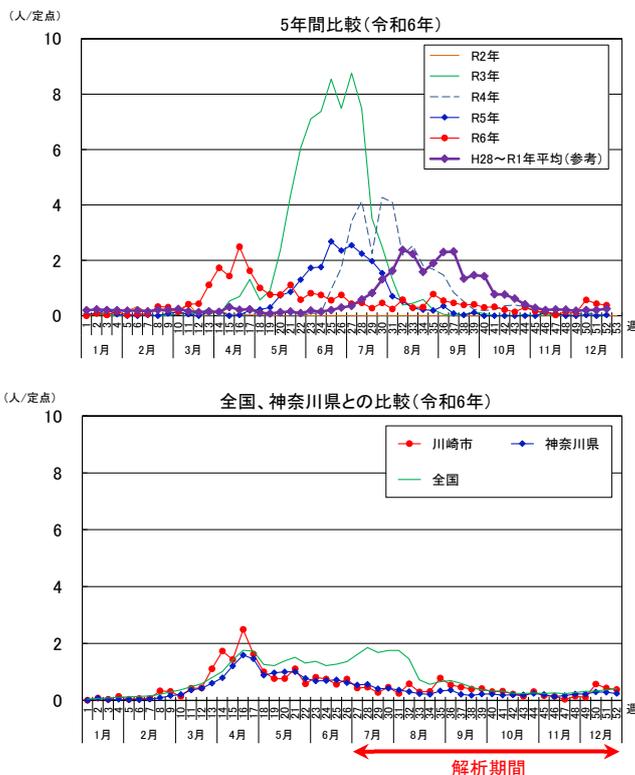
<小児科定点対象疾患>

※令和2年～令和5年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、他疾患の報告数が通常と異なる傾向であったため、平成28年から令和元年の平均と比較を行った。

RSウイルス感染症

【川崎市】

今期は定点当たり 0.34 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 0.35 倍で、例年より低いレベルで推移しました。

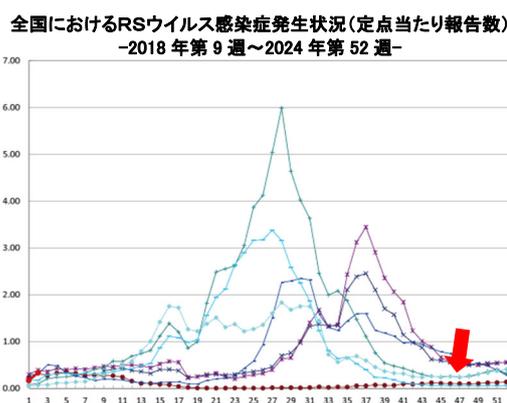
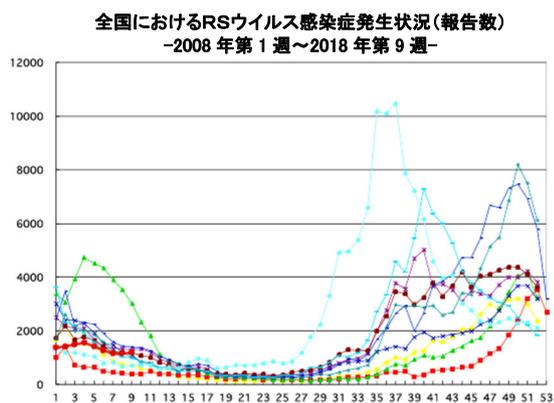


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
幸区	男	1	R6.7.1	鼻汁	RSウイルス B型
中原区	女	1	R6.8.26	鼻咽頭拭い液	RSウイルス B型

【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。



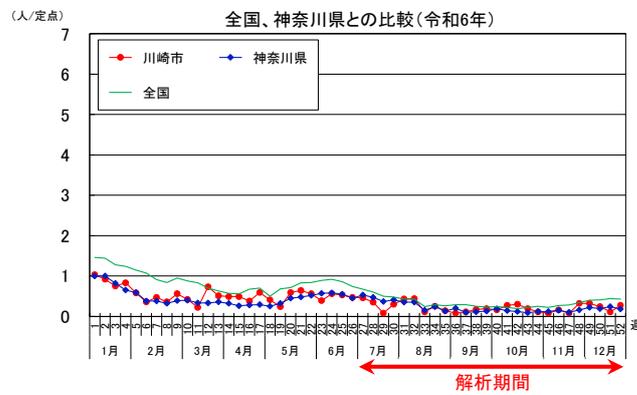
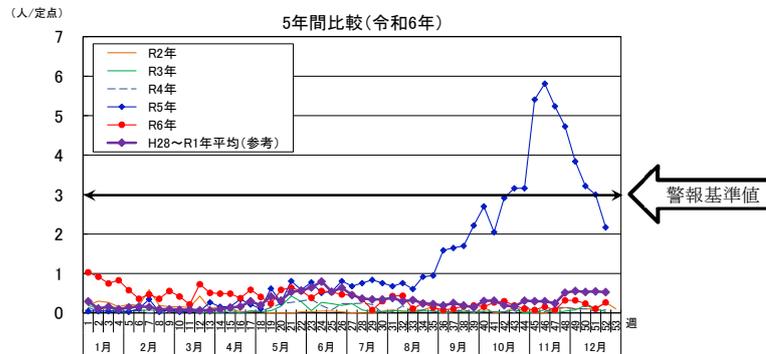
※2018年第9週(2月26日～3月4日)から、国立感染症研究所におけるRSウイルス感染症の集計方法が変更となりました。(報告数→定点当たり報告数)

咽頭結膜熱(警報基準値:定点当たり3人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.22 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 0.66 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (3) を超えた週はありませんでした。

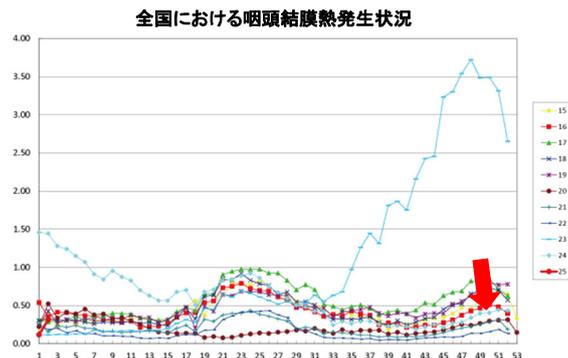


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
中原区	女	1	R6.8.23	咽頭拭い液	ヒトアデノウイルス 3 型
中原区	女	1	R6.10.18	咽頭拭い液	ヒトアデノウイルス 3 型
高津区	男	1	R6.10.22	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6 型

【全国及びその他】

全国的にも例年よりやや低いレベルで推移しました。

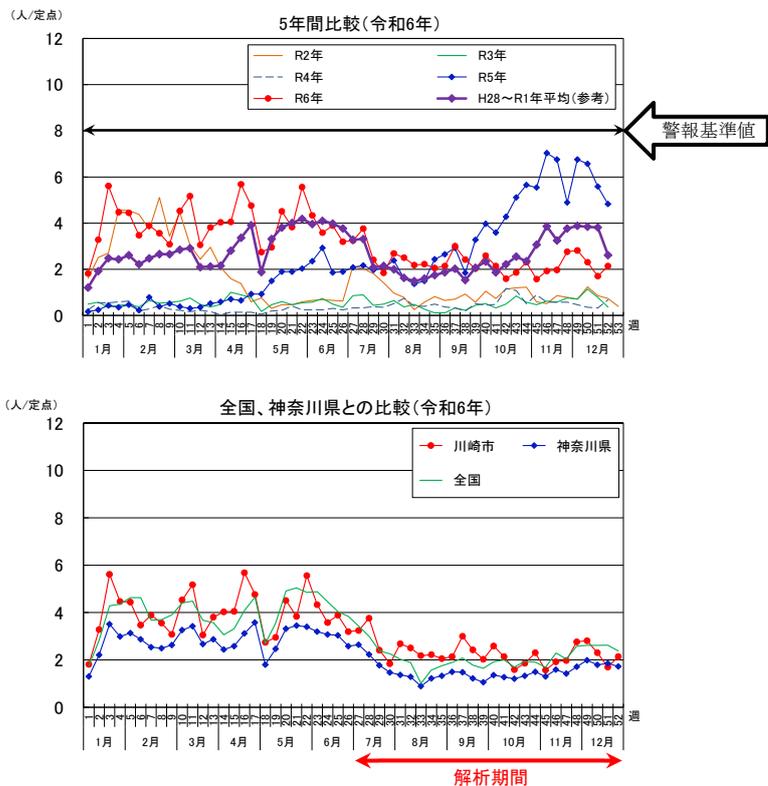


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(警報基準値:定点当たり8人)

【川崎市】

今期は定点当たり 2.31 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 0.90 倍で、例年並みのレベルで推移しました。

今期、流行発生警報基準値 (8) を超えた週は川崎区で第 33 週でした。

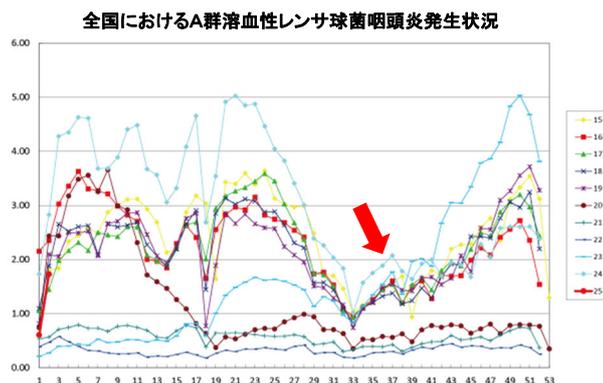


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
中原区	男	6	R6.7.2	咽頭拭い液	A 群溶血性レンサ球菌 TB3264
中原区	女	3	R6.9.9	咽頭拭い液	A 群溶血性レンサ球菌 T 型別不能
高津区	男	5	R6.9.27	咽頭拭い液	A 群溶血性レンサ球菌 T14/T49
高津区	女	36	R6.10.21	咽頭拭い液	A 群溶血性レンサ球菌 TB3264
中原区	男	4	R6.11.25	咽頭拭い液	A 群溶血性レンサ球菌 T4

【全国及びその他】

全国的にも例年並みのレベルで推移しました。

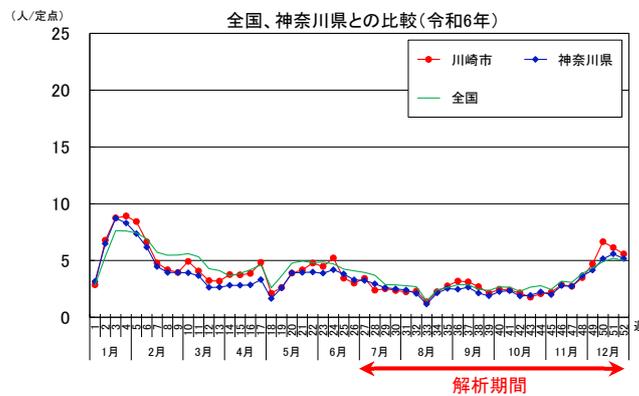
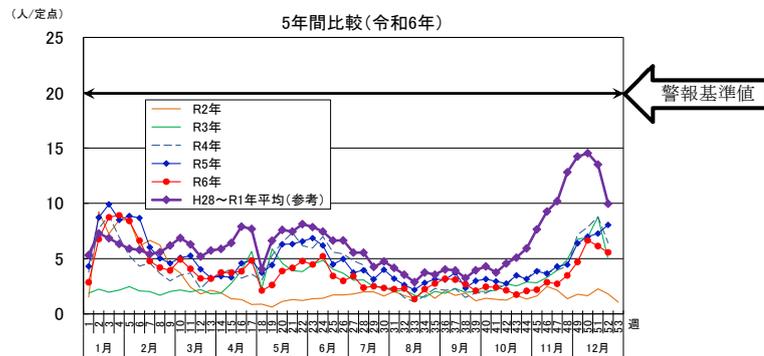


感染性胃腸炎(警報基準値:定点当たり 20 人)

【川崎市】

今期は定点当たり 3.01 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 0.46 倍で、例年より低いレベルで推移しました。

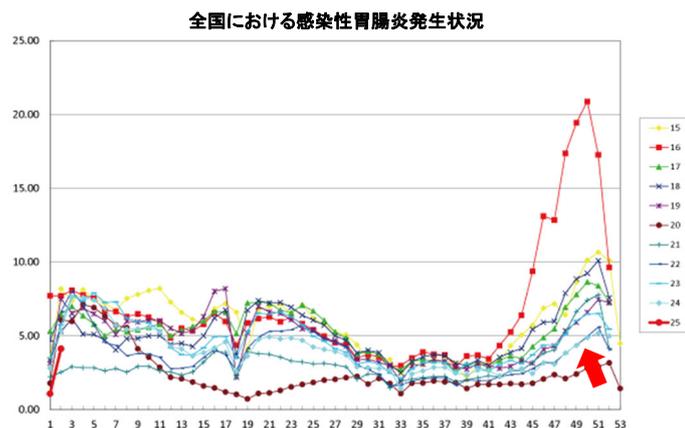
今期、流行発生警報基準値 (20) を超えた週はありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

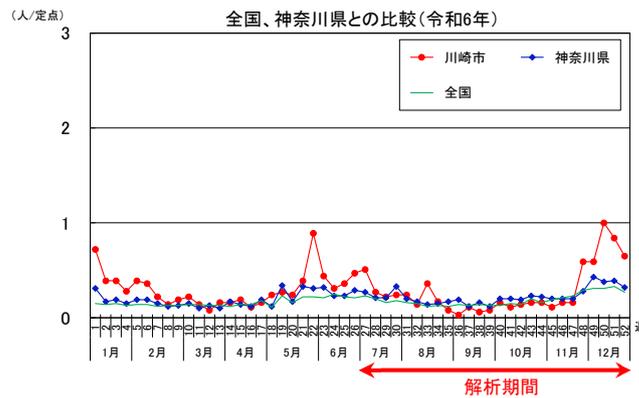
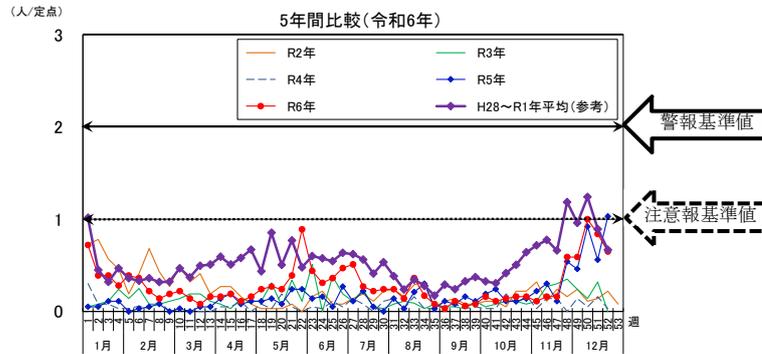


水痘(警報基準値:定点当たり2人、注意報基準値:定点当たり1人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.28 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 0.51 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。第 48 週 (11 月 25 日～12 月 1 日) に中原区において患者報告数が増加しましたが、第 51 週 (12 月 16 日～12 月 22 日) 以降は徐々に減少しています。

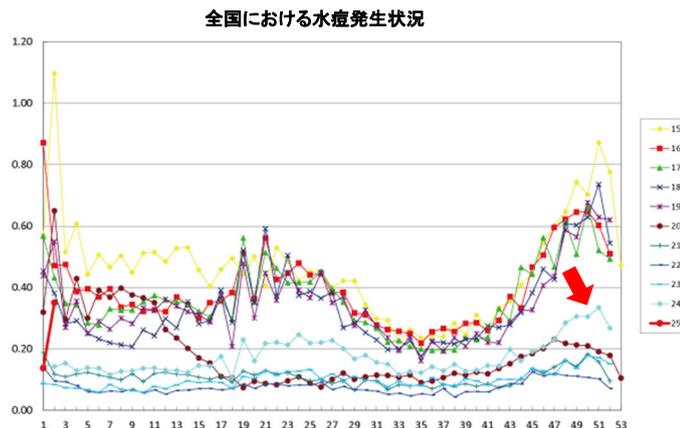
今期、流行発生警報基準値 (2) を超えた週は、中原区で第 50 週でした。流行発生注意報基準値 (1) を超えた週は、中原区で第 48 週～第 49 週及び第 51 週～第 52 週、高津区で第 51 週、多摩区で第 48 週、麻生区で第 50 週でした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的には例年並みのレベルで推移しました。

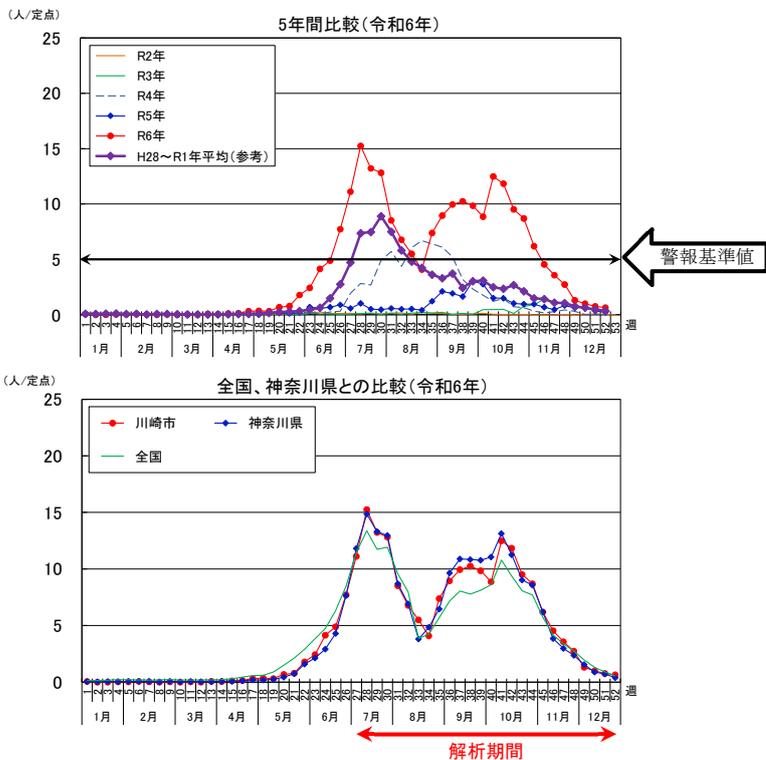


手足口病(警報基準値:定点当たり5人)

【川崎市】

今期は定点当たり 7.55 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 2.29 倍で、例年よりかなり高いレベルで推移しました。第 26 週 (6 月 24 日～6 月 30 日) に定点当たり患者報告数が 7.72 人となり、流行発生警報基準値を超え、第 28 週 (7 月 8 日～7 月 14 日) に定点当たり 15.24 人と流行のピークとなった後、報告数は一旦減少しました。その後第 35 週 (8 月 26 日～9 月 1 日) 以降再び報告数が増加し、第 41 週 (10 月 7 日～10 月 13 日) には定点当たり 12.49 人となりましたが、その後報告数は減少しました。

今期、流行発生警報基準値 (5) を超えた週は、第 26 週～第 33 週及び第 35 週～第 45 週でした。



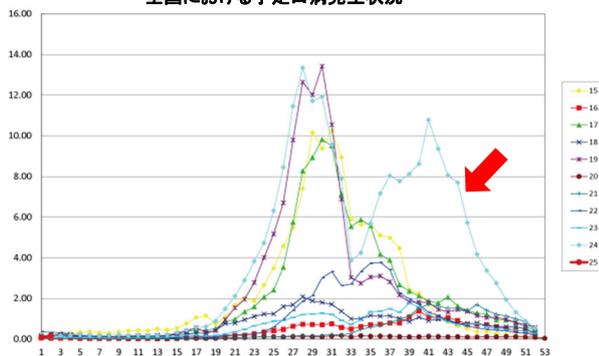
なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
高津区	女	1	R6.7.16	鼻咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A6 型
宮前区	女	25	R6.7.19	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A6 型
高津区	女	3	R6.7.29	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A6 型
高津区	男	1	R6.7.30	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A6 型
宮前区	女	2	R6.8.27	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A16 型
高津区	男	8	R6.9.19	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A16 型
高津区	女	2	R6.9.20	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A16 型、ライノウイルス
宮前区	男	7	R6.9.26	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A16 型
宮前区	男	42	R6.9.30	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A6 型
宮前区	男	3	R6.10.21	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A16 型
宮前区	男	1	R6.11.5	咽頭拭い液	陰性

【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり高いレベルで推移しました。

全国における手足口病発生状況

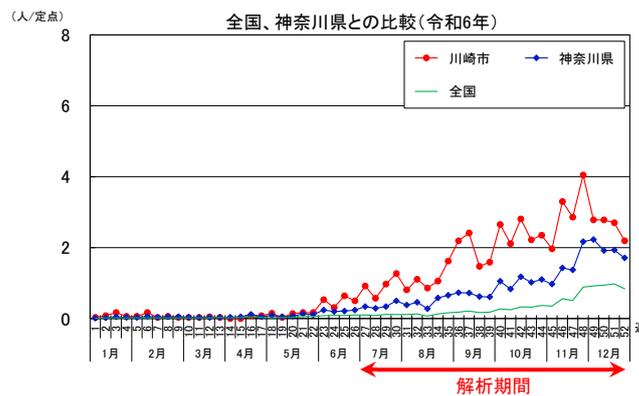
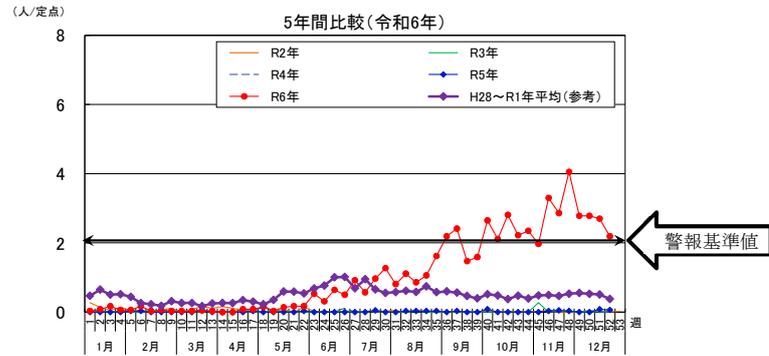


伝染性紅斑(警報基準値:定点当たり2人)

【川崎市】

今期は定点当たり 2.00 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 3.69 倍で、例年よりかなり高いレベルで推移しました。6 月以降徐々に患者報告数が増加し、第 48 週 (11 月 25 日～12 月 1 日) に流行のピーク (定点当たり 4.05 人) となりましたが、その後報告数は徐々に減少しています。

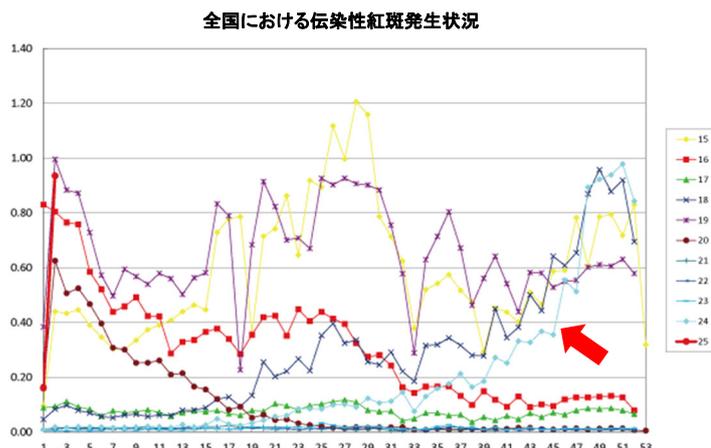
今期、流行発生警報基準値 (2) を超えた週は第 36 週～第 37 週、第 40 週～第 44 週及び第 46 週～第 52 週でした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。

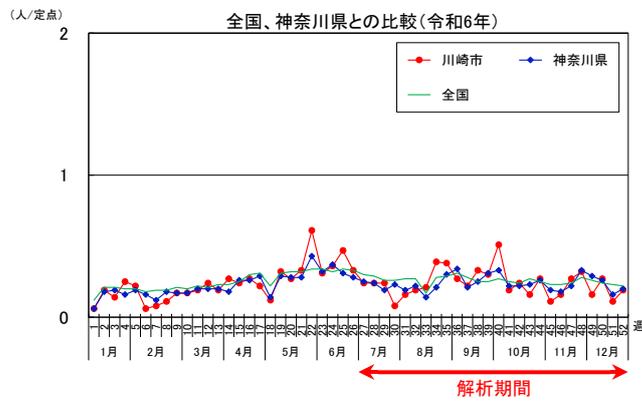
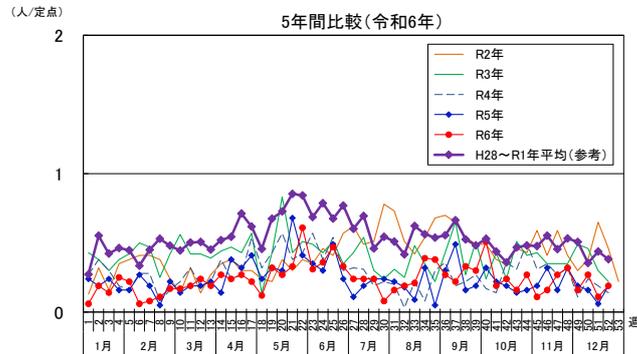


突発性発しん

【川崎市】

今期は定点当たり 0.24 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 0.48 倍で、例年より低いレベルで推移しました。

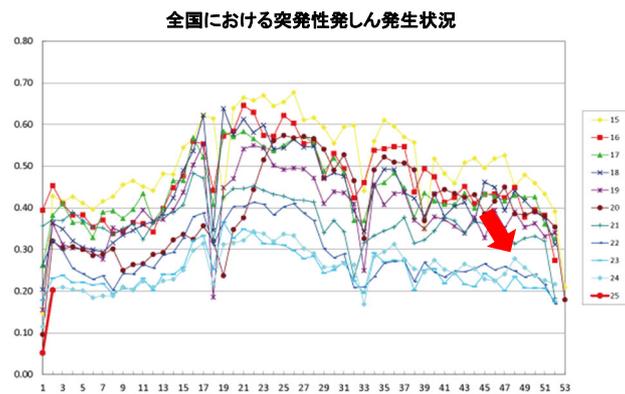
また、年齢階級別では 1 歳以下が 79.4%を占めていました。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年より低いレベルで推移しました。

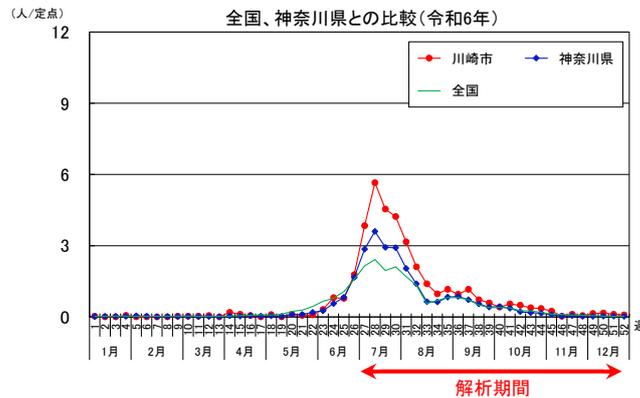
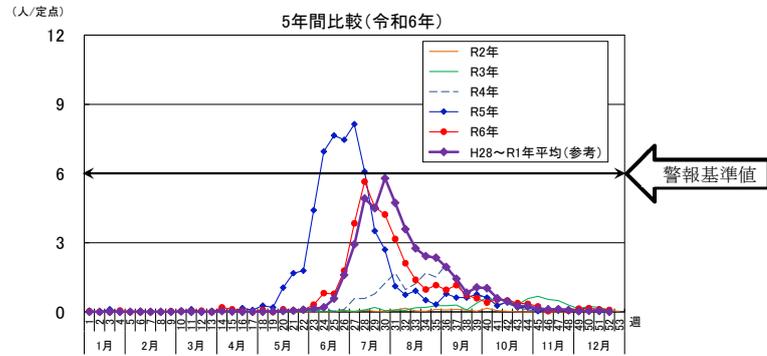


ヘルパンギーナ(警報基準値:定点当たり6人)

【川崎市】

今期は定点当たり 1.29 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 0.80 倍で、例年並みのレベルで推移しました。第 23 週（6 月 3 日～6 月 9 日）以降報告数が増加し、第 28 週（7 月 8 日～7 月 14 日）に流行のピーク（定点当たり 5.65 人）となった後、報告数は減少しました。

今期、流行発生警報基準値（6）を超えた週は高津区で第 27 週～第 30 週、宮前区で第 27 週～第 30 週、麻生区で第 28 週でした。

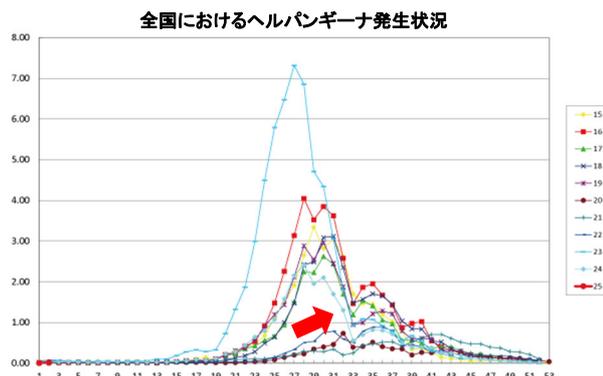


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
高津区	女	1	R6.8.5	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A6 型
高津区	男	1	R6.8.5	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A5 型

【全国及びその他】

全国的には例年よりやや低いレベルで推移しました。

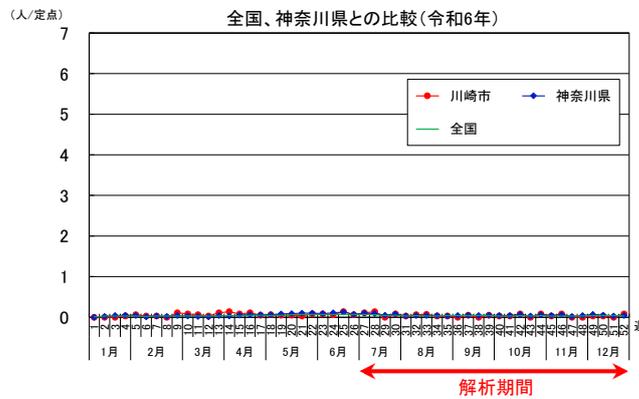
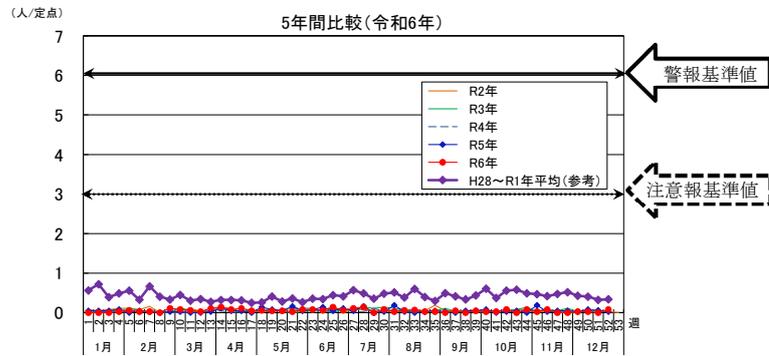


流行性耳下腺炎(警報基準値:定点当たり6人、注意報基準値:定点当たり3人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.04 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較する 0.09 倍で、例年よりかなり低いレベルで推移しました。

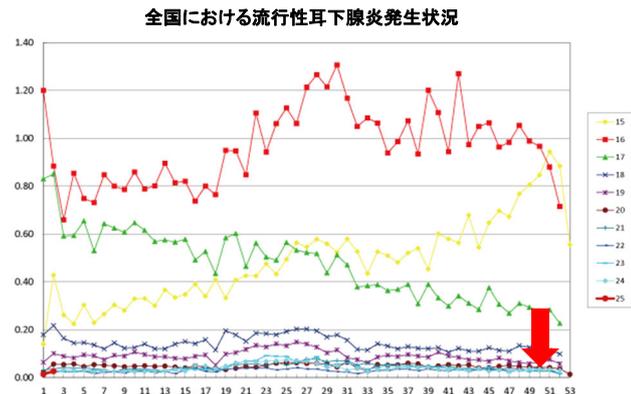
今期、流行発生警報基準値 (6) を超えた週はありませんでした。



なお、病原体定点からの検体の提供はありませんでした。

【全国及びその他】

全国的にも例年よりかなり低いレベルで推移しました。



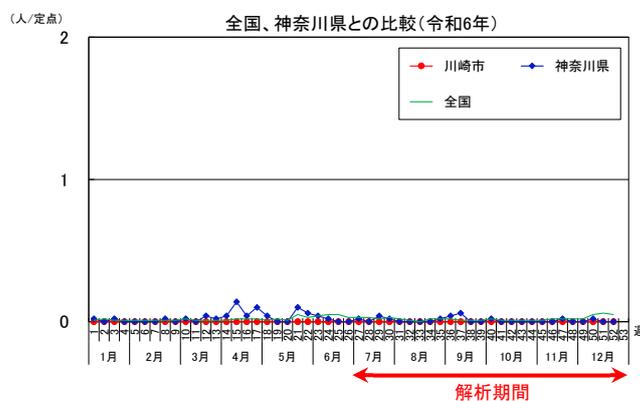
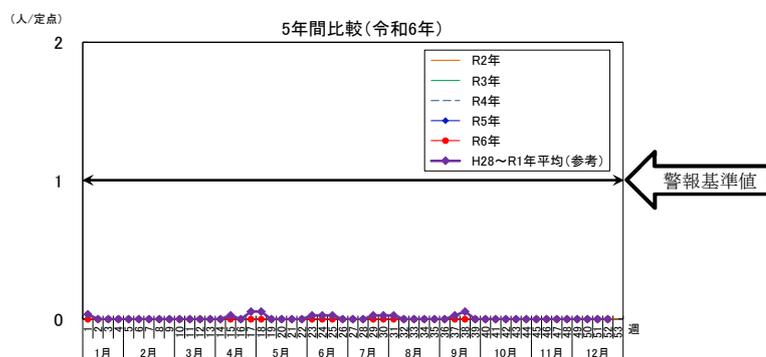
<眼科定点対象疾患>

※令和2年～令和5年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、他疾患の報告数が通常と異なる傾向であったため、平成28年から令和元年の平均と比較を行った。

急性出血性結膜炎(警報基準値:定点当たり1人)

【川崎市】

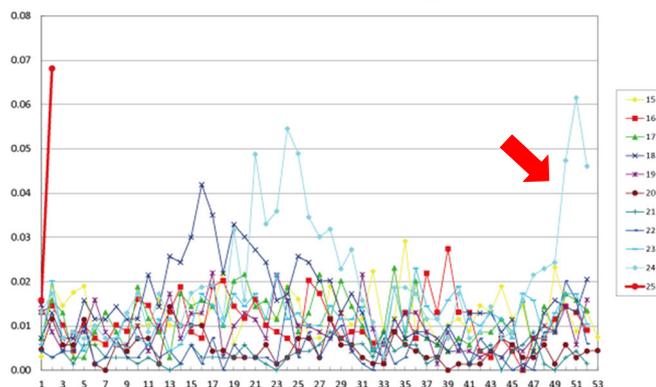
今期は報告がありませんでした。



【全国及びその他】

全国的には例年より高いレベルで推移しました。

全国における急性出血性結膜炎発生状況

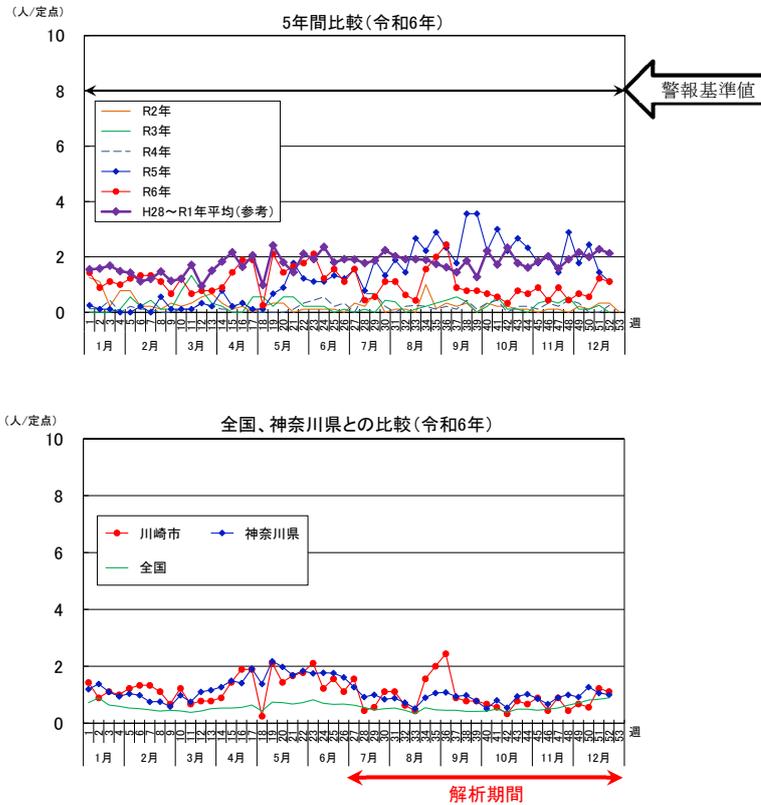


流行性角結膜炎(警報基準値:定点当たり8人)

【川崎市】

今期は定点当たり 0.91 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 0.48 倍で、例年より低いレベルで推移しました。第 34 週 (8 月 19 日～8 月 25 日) から第 36 週 (9 月 2 日～9 月 8 日) にかけて報告数が増加しましたが、その後は減少しました。

今期、流行発生警報基準値 (8) を超えた週は、中原区で第 36 週、多摩区で第 27 週でした。

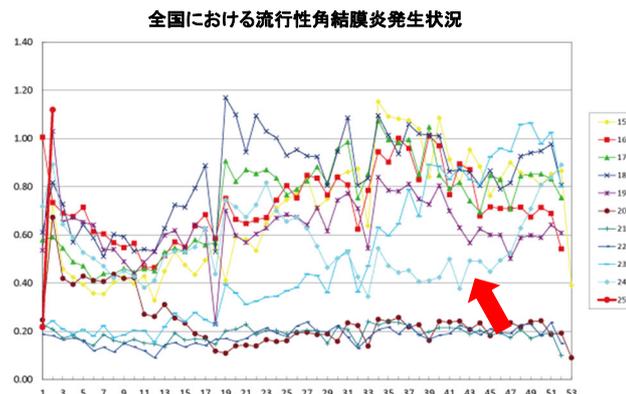


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
川崎区	女	27	R6.10.22	眼脂	陰性
川崎区	男	48	R6.10.29	眼脂	ヒトアデノウイルス 3 型

【全国及びその他】

全国的には例年よりやや低いレベルで推移しました。



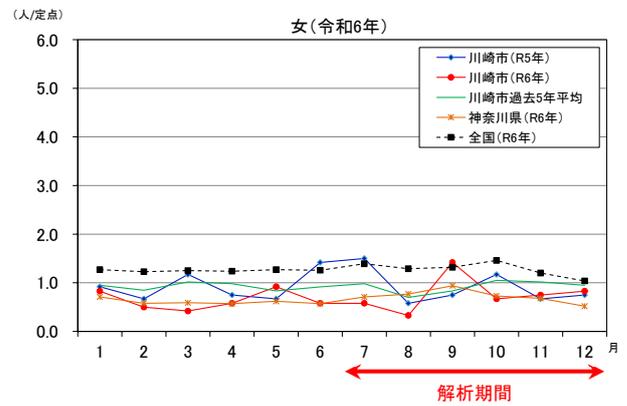
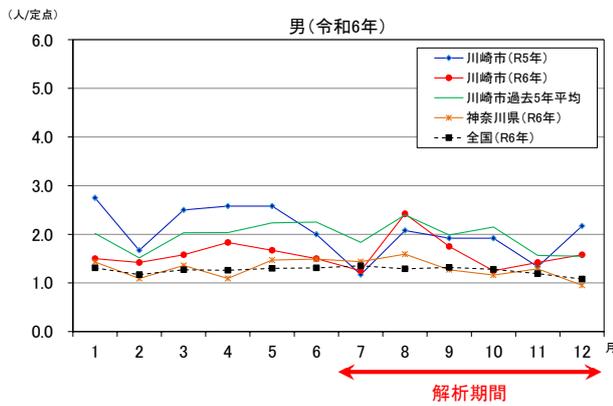
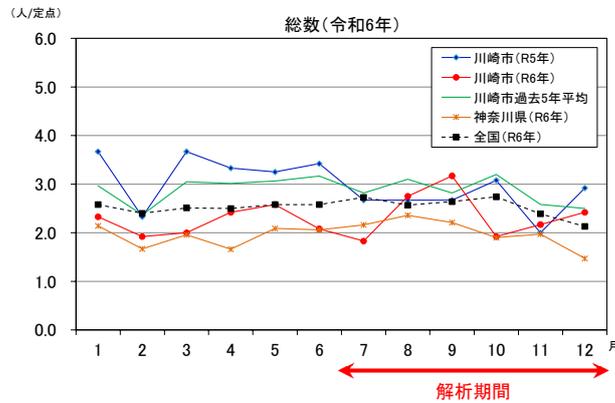
<性感染症定点対象疾患>

※新型コロナウイルス感染症が流行した令和2年から令和5年においても、報告数に変化がみられなかったため、過去5年平均と比較を行った。

性器クラミジア感染症

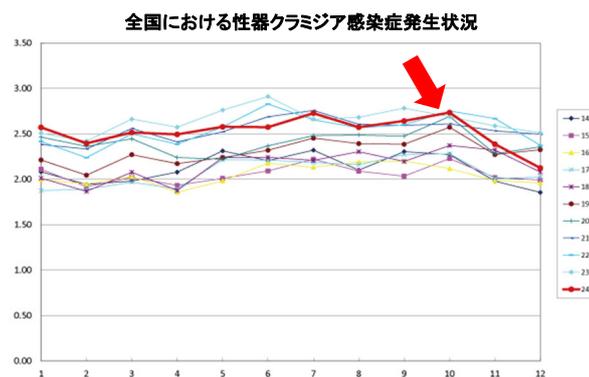
【川崎市】

今期は定点当たり 2.38 人の報告があり、過去5年平均の報告数と比較すると 0.84 倍で、例年並みのレベルで推移しました。男性は8月、女性は9月に報告数が増加しました。



【全国及びその他】

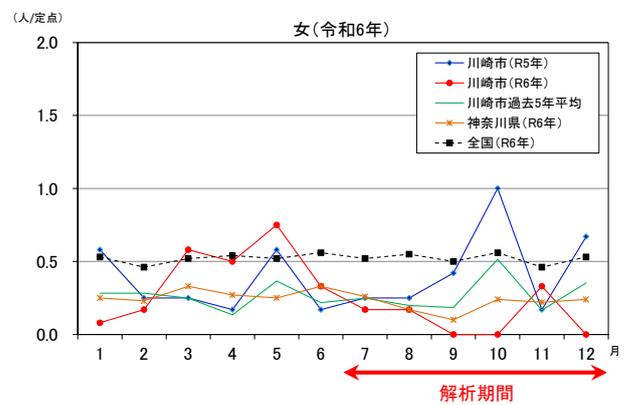
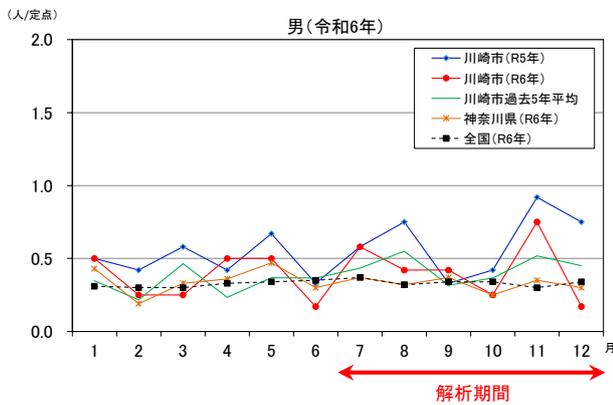
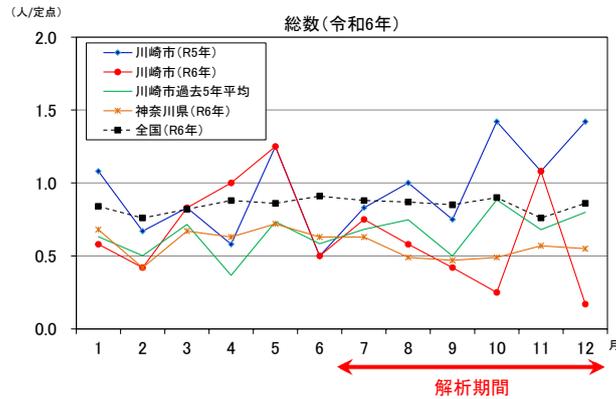
全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。



性器ヘルペスウイルス感染症

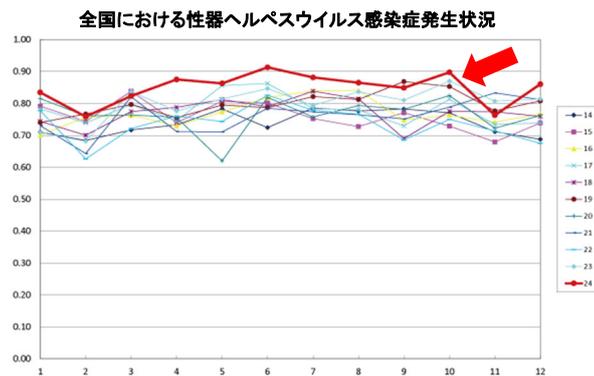
【川崎市】

今期は定点当たり 0.54 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.75 倍で、例年並みのレベルで推移しました。男性は 7 月及び 11 月、女性は 11 月に報告数が増加しました。



【全国及びその他】

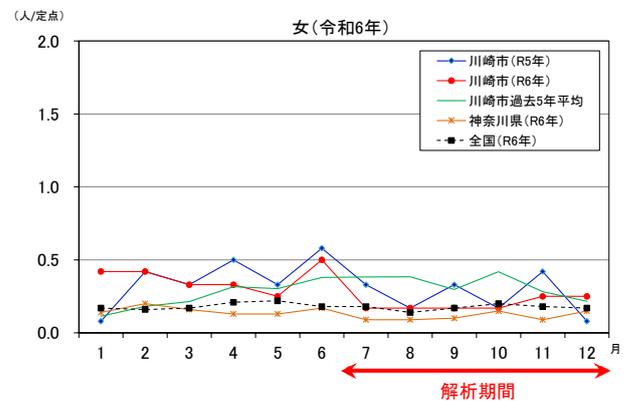
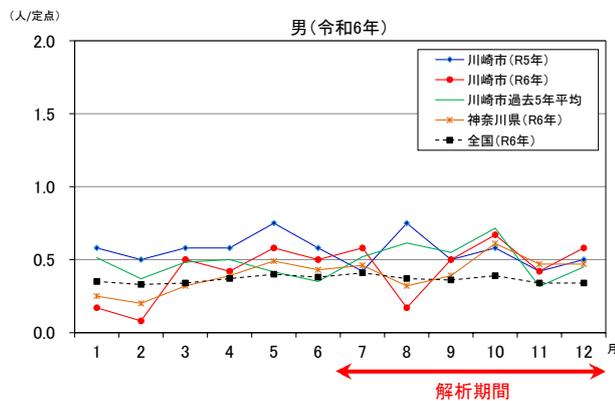
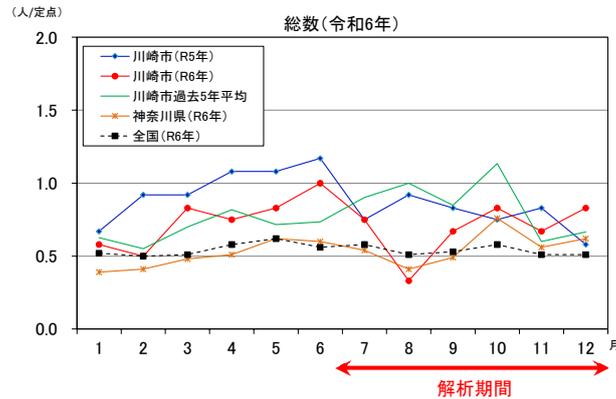
全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。



尖圭コンジローマ

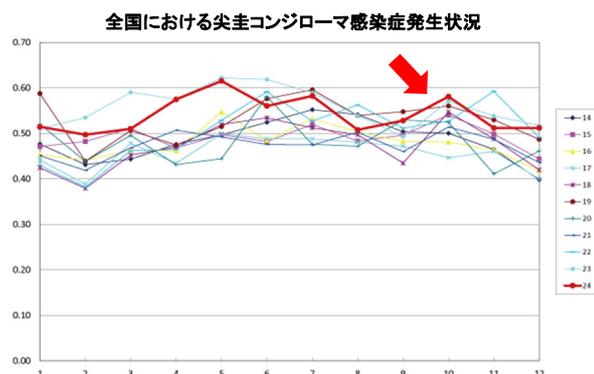
【川崎市】

今期は定点当たり 0.68 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.79 倍で、例年並みのレベルで推移しました。男性は 7 月、9 月、10 月及び 12 月に報告数が増加しました。



【全国及びその他】

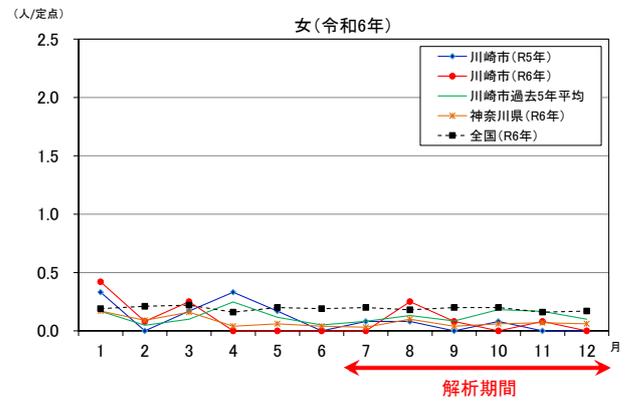
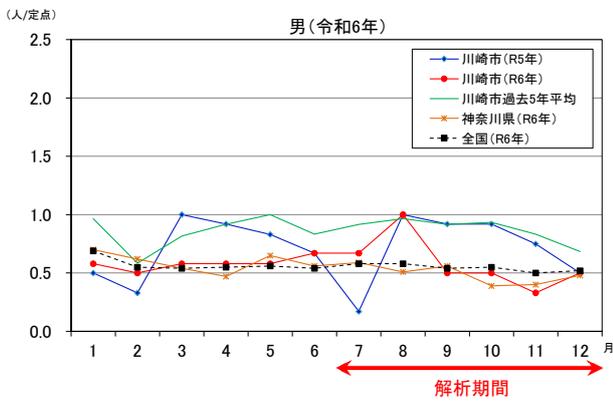
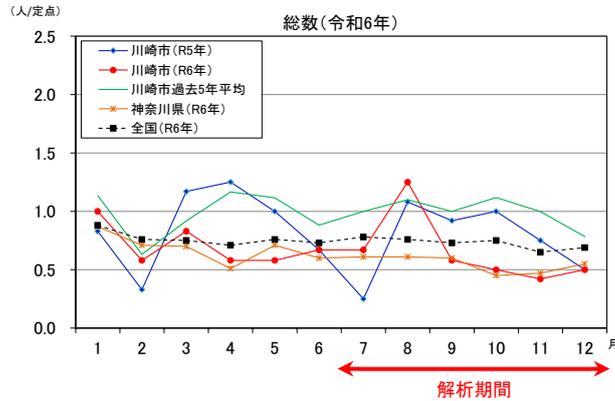
全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。



淋菌感染症

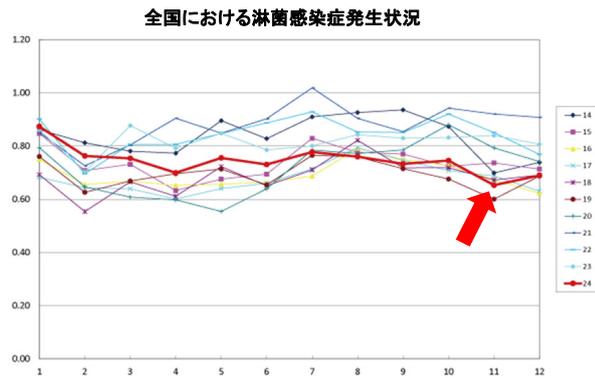
【川崎市】

今期は定点当たり 0.65 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 0.65 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。男女ともに 8 月に報告数が増加しました。



【全国及びその他】

全国的にも例年よりやや低いレベルで推移しました。



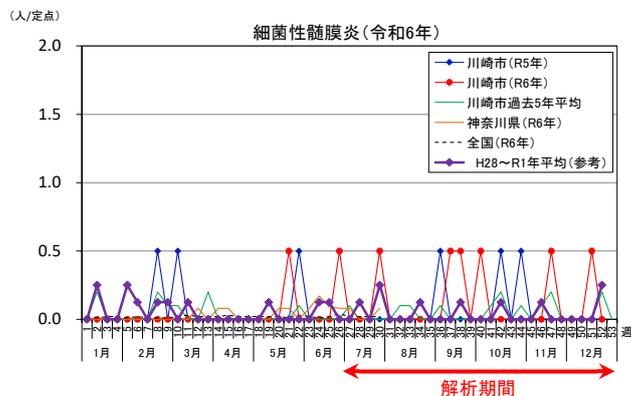
< 基幹定点対象疾患（週報） >

※令和 2 年～令和 5 年は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、他疾患の報告数が通常と異なる傾向であったため、平成 28 年から令和元年の平均と比較を行った。

細菌性髄膜炎

【川崎市】

今期は定点当たり 0.12 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 2.67 倍で、例年よりかなり高いレベルで推移しました。令和 6 年第 30 週、第 37 週、第 38 週、第 40 週、第 47 週及び第 51 週に各 1 件の報告がありました。

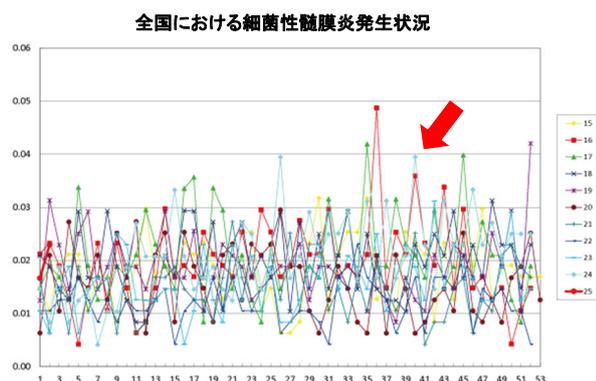


なお、検出された病原菌は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	届出週	検査材料	検査結果
川崎区	男	3 か月	第 30 週	髄液	other bacteria
川崎区	女	43	第 37 週	髄液	<i>Streptococcus</i> other groups
川崎区	女	80	第 38 週	血液、髄液	<i>Streptococcus agalactiae</i>
宮前区	男	59	第 40 週	血液、髄液	<i>β-Streptococcus</i>
宮前区	女	48	第 47 週	髄液	<i>Staphylococcus epidermidis</i>
川崎区	女	52	第 51 週	髄液	<i>Staphylococcus aureus</i>

【全国及びその他】

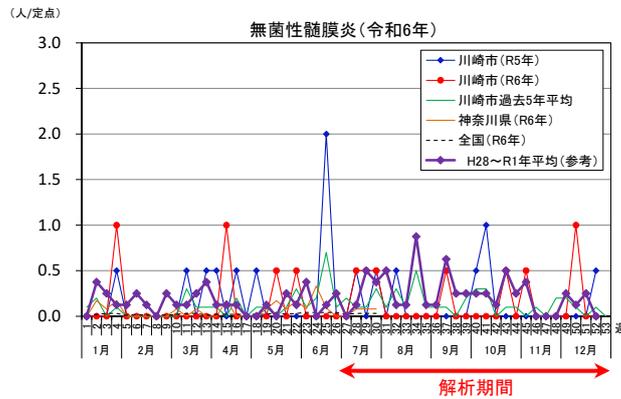
全国的には例年よりやや高いレベルで推移しました。



無菌性髄膜炎

【川崎市】

今期は定点当たり 0.15 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 0.61 倍で、例年よりやや低いレベルで推移しました。

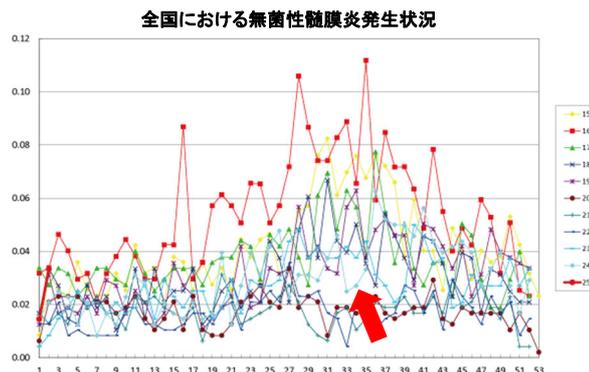


なお、病原体定点からの病原体検出状況は次のとおりです。

区名	患者性別	患者年齢	検体採取日	検査材料	検査結果
川崎区	男	29	R6.7.8	髄液	陰性
川崎区	男	36	R6.7.19	髄液	水痘・帯状疱疹ウイルス
宮前区	男	7	R6.7.22	髄液	陰性
			R6.7.23	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 7 型
			R6.7.23	便	陰性
宮前区	女	10	R6.8.12	髄液	陰性
			R6.8.12	咽頭拭い液	陰性
			R6.8.13	便	陰性
川崎区	女	18	R6.8.29	髄液	陰性
川崎区	女	17	R6.9.12	髄液	陰性
川崎区	女	0 か月	R6.9.21	髄液	陰性
川崎区	女	5	R6.9.24	髄液	陰性
川崎区	男	36	R6.10.23	髄液	陰性
川崎区	男	2 か月	R6.11.2	髄液	エコーウイルス 11 型
川崎区	男	37	R6.12.10	髄液	水痘・帯状疱疹ウイルス
川崎区	女	26	R6.12.11	髄液	検査中

【全国及びその他】

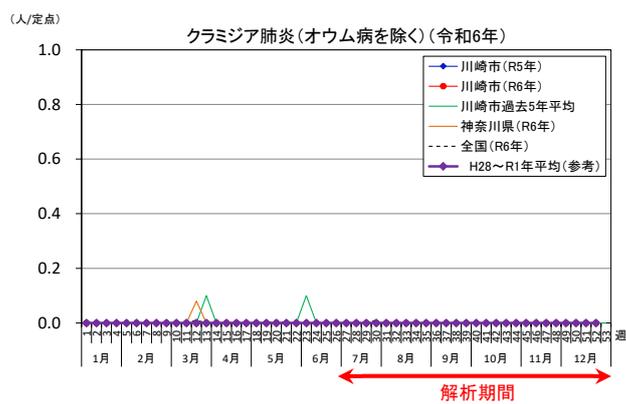
全国的には例年並みのレベルで推移しました。



クラミジア肺炎(オウム病を除く)

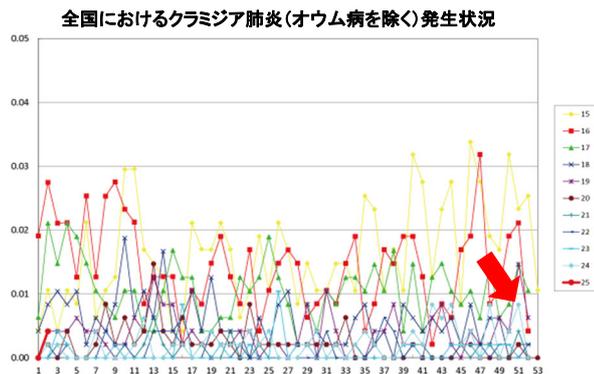
【川崎市】

今期は報告がありませんでした。



【全国及びその他】

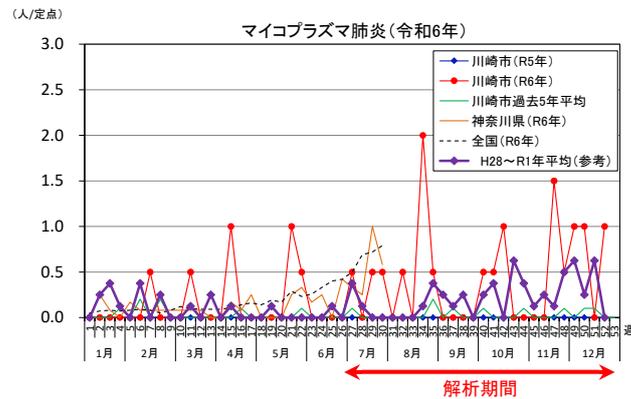
全国的にも例年より低いレベルで推移しました。



マイコプラズマ肺炎

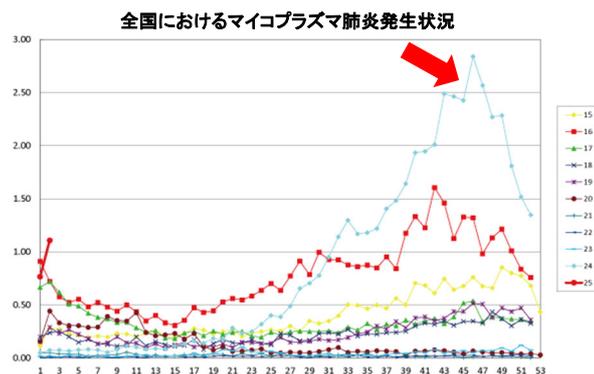
【川崎市】

今期は定点当たり 0.44 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 2.00 倍で、例年より高いレベルで推移しました。



【全国及びその他】

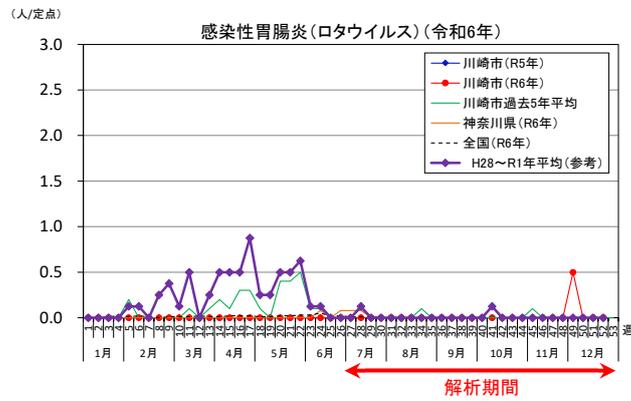
全国的には例年よりかなり高いレベルで推移しました。



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

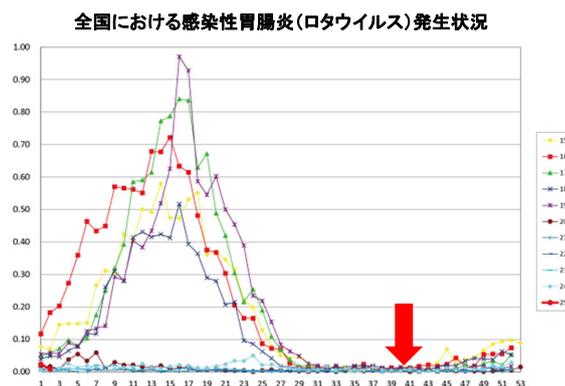
【川崎市】

今期は定点当たり 0.02 人の報告があり、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較すると 2.00 倍で、例年より高いレベルで推移しました。



【全国及びその他】

全国的には例年より低いレベルで推移しました。



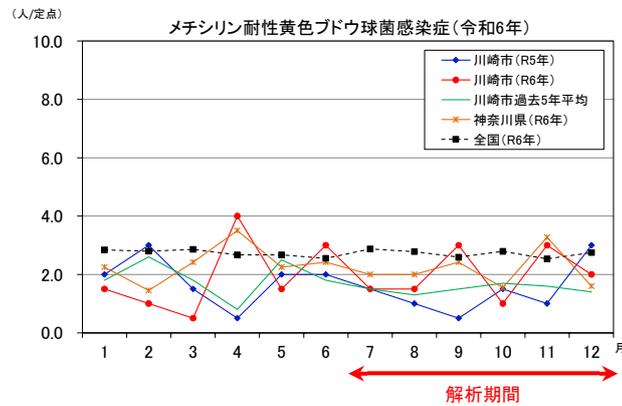
<基幹定点対象疾患（月報）>

※新型コロナウイルス感染症が流行した令和2年から令和5年においても、報告数に変化がみられなかったため、過去5年平均と比較を行った。

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

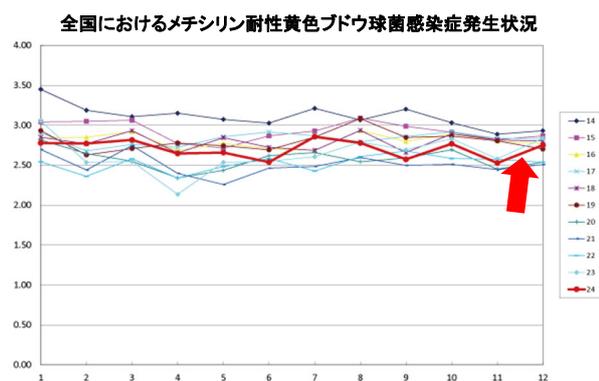
【川崎市】

今期は定点当たり 2.00 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.33 倍で、例年よりやや高いレベルで推移しました。



【全国及びその他】

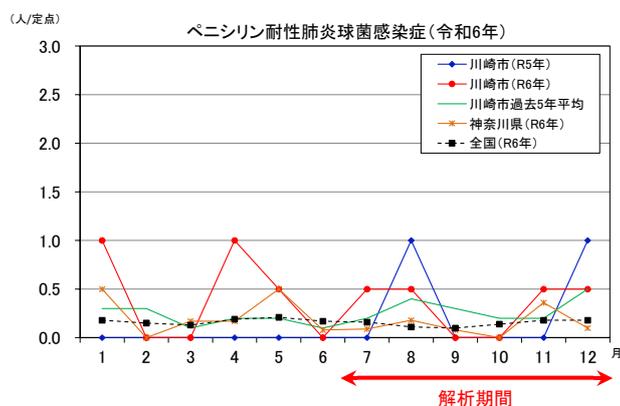
全国的には例年並みのレベルで推移しました。



ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

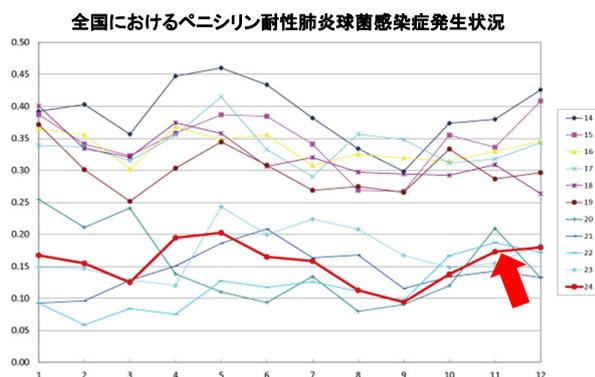
【川崎市】

今期は定点当たり 0.33 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.10 倍で、例年並みのレベルで推移しました。7 月、8 月、11 月及び 12 月に各 1 件の報告がありました。



【全国及びその他】

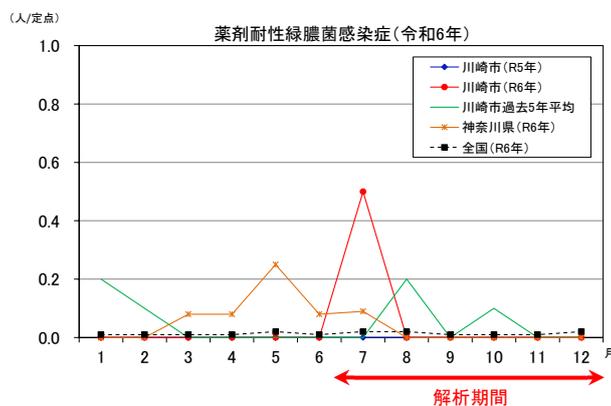
全国的には例年よりやや低いレベルで推移しました。



薬剤耐性緑膿菌感染症

【川崎市】

今期は定点当たり 0.08 人の報告があり、過去 5 年平均の報告数と比較すると 1.67 倍で、例年より高いレベルで推移しました。7 月に 1 件の報告がありました。



【全国及びその他】

全国的には例年より低いレベルで推移しました。

